

Кресту Твоему поклоняемся, Владыко, и святое воскресение Твое славим



小田原 平塚・修善寺・柏久保正教会だより

2023年10月1日発行 第253号

КРЕСТЪ クレスト

2023年10月号

司祭 ディミトリイ 田中 仁一

〒250-0011 神奈川県小田原市栄町四丁目 4-1

TEL/FAX : 0465-22-2792 携帯 070-5079-3408

E-mail: holyspiritodawara@gmail.com

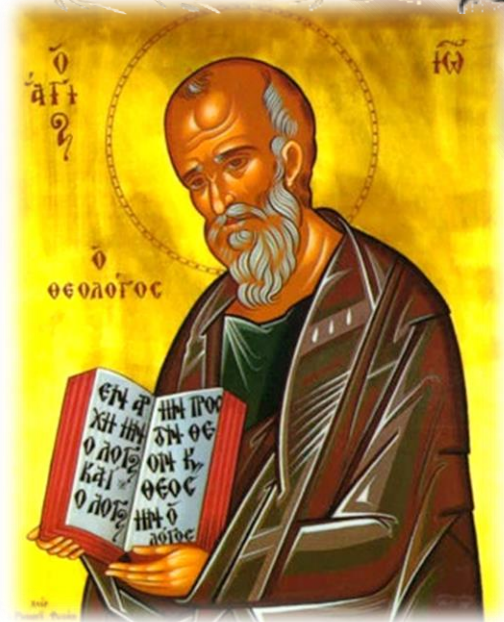
教団 HP: <http://www.orthodoxjapan.jp/>

小田原正教会 HP: <http://odawara-orthodox.com/>

郵便振替口座(小田原): 00270-6-15226

神学者よ、
爾は天上の事を知る
知識を得て、神言を傳え、
太初に言有り、言は彼を
生みし者と共に在り、
言は即ち神なり
と福音して教えたり。

神学者イオアン祭 早課より



聖使徒福音者神学者イオアン

イオアンは漁師ゼヴェディの息子で、主ハリストスの呼びかけに従い兄イヤコフと共に弟子になった。十二弟子の中で最も若年で最も主から愛されたと自ら記している。イオアンは弟子であり、福音記者であり、神学者である。100歳を超える長寿で、晩年の西暦90年代前半、パトモス島に幽閉された。「イオアンによる福音書」、3通の書簡(手紙)、そして黙示録を書き記した。イコンで彼が手に持つ書物に記されているのは「太初に言あり、言は神とともにあり」ではじまる彼が記した福音書の冒頭である。正教会では復活祭に読まれる。聖使徒福音者神学者イオアンは10月9日(新歴9月26日)に永眠した。

- 五旬祭後第 17 主日聖体礼儀(第 8 調)/私祈祷・聖歌練習会(昼食後)
10月1日(日) 10:00~(9:30 痛悔)
使徒経:コリント後書 6:16-7:1 福音経:マトフェイ 15:21-28
- 五旬祭後第 21 主日聖体礼儀(第 4 調)・月例パニヒダ
10月29日(日) 10:00~(9:30 痛悔)
使徒経:ガラティヤ 2:16-20 福音経:ルカ 8:5-15

セラフィム府主教着座式 (着座式・聖体礼儀までの参拝は自由)
10月22日(日) 9時30分 東京復活大聖堂にて

正教会にようこそ 32

一つのイコンの形にも何種類かスタイルがあるように、正教会には柔軟なところと確固としたところがあります。お話ししたように、イコノスタシスでは私たちから見て、必ずキリスト/ハリストスが右でマリアが左です。しかしその図像にはマリアが右腕にイエスを抱いている者もあれば左腕に抱いているものもあるのです。スタイルはどうであれ、ここにある生神女は幼子イエス/イイススを抱いていること。もし印のイコンもその聖堂にあるなら、それは至聖所の一番奥というように決まっています。

今私は生神女マリアのイコンと呼びましたが、実はこれはハリストスのイコンでもあるのです。幼いハリストスが生神女の上に座っているイコンです。左の生神女のイコンは、クリスマスでご存知のようにハリストスがこの世に初めて来たときのイメージであり、右のパントクラトールのイコンは、世界を手に収めたイイススが世を審判するために再び地上に来ることを示したイメージなのです。つまりこれらはハリストスが「この世に来たとき」と「再び来る^{ついで}とき」という対のイコンということです。

この2枚のイコンが王門を挟み、その王

門からハリストスから私たちへの聖なる贈り物、尊い体と血を見ることができ、また私たちに与えられるようになっています。

パントクラトールのハリストスのイコンの右隣りは^{ぜんくじゅせん}前駆授洗イオアンのイコンです。一般的には洗礼者ヨハネと呼ばれています。前駆とはハリストスが救い主としての活動を始めるのに先立って、救い主の到来を大衆に告げたことからそのように呼んでいます。「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。マラキ書 3: 1) 前駆授洗イオアンはこのようにハリストスの方を向いて懇願するような祈りの恰好で描かれます。驚いている方もおられますが、彼には極彩色の大きな翼がついています。イコンでは翼はメッセンジャー、使者を意味します。ギリシャ語のアンゲロスという単語はエンジェルの語源になっていますが、このアンゲロスは「使者」という意味です。前駆授洗イオアンは「砂漠の天使」とも呼ばれます。



生神女マリアのイコンの左隣を見てみま

しょう。聖フェリシティのアイコンがあります。その名の通り、彼女はこの教会の守護聖人です。イコノスタシスには必ずと言っていいほど、その教会が頂いている名前を記憶するアイコンがあります。歴史に彼女の外見までは記されていないので、聖フェリシティが本当にこんな顔だったかは分かりません。しかしアイコンには、描かれた人の霊的な働きなどの特徴が描かれています。聖人たちのアイコンは、その人たちを通じてハリストスの光を放っています。要するに全てのアイコンは彼の光を放つものとして描かれているのです。

聖フェリシティの場合は姿や顔がどのようなであったか知ることは出来ませんが、中には明確に分かるものもあります。存命中に描かれたというミラノの聖堂内にある聖アンブロシイのモザイク画は当然本人によく似ています。また様々な記録の断片から推測してできたイメージもあります。例えば髪が大きく後退している聖パウロ/パウエルや、無造作なグレイヘアの聖アンドレなどです。性別も分からなければ民族も分からないものもあります。しかし私たちが必要としているのは自分たちがどこへ向かうのか、という指標です。見るべきは、ハリストスによって変容した人間の姿です。

写真の出現はビジュアルアーツ(視覚

的芸術)を複雑化しました。アイコンも例外ではありません。イリーナ ヤジコワは著書「隠れ家と勝利」の中で、ソ連時代のアイコン画家たちが現代の聖人たちをまるで写真の複製みたいに正確に描いていたということを書き綴^{つづ}っています。

「そうしたアイコンは、アイコン的とは言えずむしろ肖像画のようである。それを見る人は、天の国や変容の奇跡という聖人の本質に向き合う感覚を持たない。それとは真逆に、世間一般に見てもらうため、画家のセンスのまま抽象的に描いてしまって誰が誰だか分からないという作品もある。これでアイコンが忠実に描かれても抽象的に描かれても、天国への窓として機能をしないことが分かる。そうしたアイコンだと、人は描かれるべき「原型」と内なる繋がりを持つことができないため、祈りの道具として機能しない。」

あらゆる聖人の人生の後ろにハリストスがいることを伝えるということから、生神女マリアが単独で描かれることは数少です。多くの場合、彼女はその子供と一緒に描かれます。それはマリアの地位を高めるためではなく、ハリストスが実際地上に生活したという事実を伝えるためです。そこには、初めから存在している神が、その時から懐^{ふところ}に抱えられる者となったというメッセージがあるのです。

■お葬儀の流れ（再掲）

キリスト教の埋葬式の歴史は2000年近くあり、昔は大変長い時間をかけて行っていたようですが、現代では今の時間に合わせ、特別なケースでない限り1時間を超える祈祷はあまりなくなりました。

ほとんどのお葬儀は突然やってきます。永眠者の周囲の人は動揺の中で駆けつける司祭を迎えます。最初に永眠者のために行うのは「^{れいこん}靈魂^{しゅつり}出離の祈祷」です。大切な祈りですが、^{こんにち}今日多くの場合、葬儀の具体的な打ち合わせが短時間のうちに並行して行われます。次の大きな祈祷は「^{のうかん}納棺」です。人生を全うし、神の国に進むことを示す^{えいかん}栄冠（紙や布でできています）が永眠者の頭に被せられます。

最近は様々な事情により、ここに書いているとおり行わないこともあります。一般的な形では埋葬式の前日の夜にパニヒダを行います。パニヒダとは古典ギリシア語で「夜通し祈る」という意味で、日本語の通夜とほぼ同じ意味の言葉です。そして翌日埋葬式を行います。

余談ですが斎場での葬儀を行う準備で、祭壇に向かって柩を縦に、足を祭壇側に向けて置くよう斎場の担当者にお話しすると、戸惑う顔や驚きの反応にあうことがあります。日本文化では珍しく感じられるのかもしれませんが。永眠者が再び立ち上がった時にお体が神様の方を向くようにと配慮し、キリスト教ではこのように柩を置きます。

埋葬式の後、日本ではおおよその場合火葬します。この後は、三日祭、^{ここのかさい}九日祭と続きます。最近の日本ではほとんどの場合、火葬を終えたあとは九日祭を行います。その後は四十日祭を行います。四十日は聖書に於いて試練や忍耐の長さを表現する数字です。この時に合わせて納骨することが多いのですが、当然それに限りません。これらのことは神父と相談しながら決めてください。（そもそも多くの正教国では埋葬式の日^に土葬するので、もし納骨としてお骨を拾い集めて納骨堂などに安置することがあるとすれば、それはずっと先のことです。）

その後半年、一年、と人が集まって記憶します。基本的に正教会では周忌にかかわらずいつでもパニヒダを行っても構いません。正教文化の根強い国では、土曜日に死者のための聖体礼儀があり、糖飯をもって教会に来て永眠者を記憶します。日本で馴染みの習慣に合わせたり、教会に人が集まる日曜日、月に一度聖体礼儀後に行う「^{げつれい}月例パニヒダ」で月命日の永眠者を記憶して祈っています。パニヒダには糖飯を作って持ってきて、永眠されたご家族の^{かたど}象りとして頂く習慣があります。

こうしたことが、ご家族で集まって永眠した家族のために記念祭を行う日を決める時の参考になればと思います。



臨時公会

9月28日(木) 13時～ 東京 ニコライ会館

代表役員代務者 セラフィム大主教座下より、首座主教選立のための臨時公会開催が公示されました。臨時公会後、東京復活大聖堂にて府主教ダニイル四十日祭を行います。

こども成長感謝祈祷 (予定)

開催日時: 2023年11月5日(日) 聖体礼儀後

お子様の健やかな成長を感謝し、これからも神の護りのうちに歩めるよう祈願します。ぜひご参拝ください。



これまでも現在も信徒の方々が片手や両手に様々な花を持ってきて、聖堂内に飾ってくださっています。

ありがとうございます。